

もっと職場を知る！職場短期派遣研修報告書

<所属> 地域振興部 しまね暮らし推進課

<氏名> 荒木 俊輔

<派遣先> 出雲市 四絡コミュニティセンター

- 研修の日時 H24/6/25(月) 8:30-17:15 (事務)
H24/6/29(金) 8:30-17:15 (事務)
H24/7/2(月) 8:30-17:15 (事務)
H24/7/6(金) 8:30-17:15 (事務)
H24/8/5(土) 16:00-17:00 (ボランティア)
H24/8/6(日) 8:00-17:00 (ボランティア)

● 研修の内容及び感想

① パソコン教室の講師

四絡コミセンでは、市民の生涯学習の機会の創出として、様々な集会、イベントの企画実施を行っておられます。パソコン教室もそのうちのひとつで、週に2回地域の高齢者や主婦など10人近くの方が参加、講師はリタイヤされた地域の方々のボランティアです。参加者は皆、自治会の会計、自営業の経理、まつりの案内、短歌の紹介文などの案文を持参し、講師の指導を受けながらワードやエクセルを使って作成します。微力ながら、簡単な表計算、文書作成等をご指導させて頂きました。



この教室には、皆さんが地域社会の中でさらに活躍されることへの手助けとなり、その社会活動をより充実したものとする役割があると感じました。「あ〜、今日のパソコン教室は楽しかった〜」と言ってもらえたことがとても嬉しかったです。

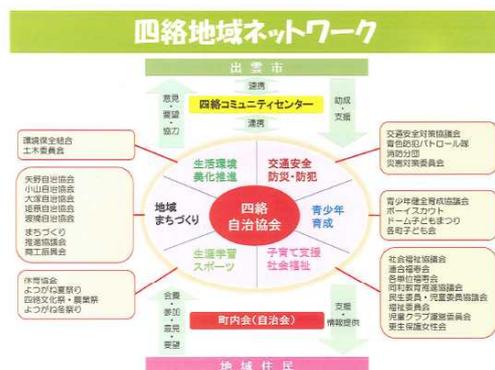
② 市報配布作業の補助

出雲市が月2回発行する市報を四絡コミセンの職員でまる一日かけて各自治会に配布されています。四絡の世帯数は1,800で、自治会は新規の戸建て団地が数世帯で組織されているところが多くかなり細分化されているため、市報の配布には大変な労力が要ります。また、四絡には国道9号、浜山道路などの郊外店舗が立ち並ぶエリア、築地松を擁する農家が点在する農村エリア、アパートやマンション、戸建て住宅などが並ぶ新興住宅地、そしてイズミ、イオンなどの大型店舗や中央病院の立地。土地利用やそこに暮らす方々の生活スタイルは多様性に富み、範囲も広い地区であるということを改めて痛感しました。

③ 四絡自治協会紹介 p p t の作成

四絡地区は、浜山通り、国道9号バイパス等の社会基盤整備の進展に伴い、人口が急激（戦後以降約4倍）に増加し、平成23年には11千人を突破しています。幹線道路沿線にはイズミ、イオンなどの大型店舗が乱立し、出雲市随一の商業集積地となりました。また、出雲ドーム、中央病院、消防署などの体育、文化、医療、公益施設が多数立地し、四絡はまさに出雲市の政治文化経済の中心地として大きく発展しています。一方で、アパート、マンションの急速な立地により、持ち家比率はわずか45%（島根県は約73%）に減少。これにより、短期間の居住者や若者単身の世帯が増加し、自治会加入率の低下、組織力の低下が大きな課題となっています。この状況下、四絡コミセンでは地域の人と人を結ぶ組織として、様々な自主事業を展開したり、「自治協会」という地域の様々な活動団体が参加する独自の組織体制を構築したりして、地域コミュニティの確立に尽力されています。

四絡コミセンの田村センター長は、出雲市のコミセンセンター長会の会長でもあり、様々な場面で四絡の状況や、四絡での取り組みを講演・紹介される際の材料となる資料を作成させていただきました。



④ ドーム子どもまつりの手伝い

四絡地区では、毎年出雲ドームにてよつがね夏祭り、ドーム子どもまつりを開催しておられます。ドーム子どもまつりでは、地区内の様々な団体が40近くのイベントブース（ゲタ飛ばし、手作り玩具、大型迷路等）や、飲食コーナー（焼きそば、カレーライス等）を出展し、300人以上のスタッフ・ボランティアで運営されます。

私は、まつり当日に使用する机、椅子、その他の備品の搬入、片付け等を手伝ったほか、ステージで行われるカムイアリーショー（今市で地元商店街を盛り上げるために結成されたヒーロー戦隊）や、ミコピーによる交通安全教室などの司会進行をつとめる地元中学生のフォローをさせていただきました。



- この度の研修では、地域でコミセンが果たす役割を実感できたばかりでなく、自分も生活する出雲で貴重な人脈を広げることができました。田村センター長をはじめ、職員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。